



避難所等の収納棚や間仕切り等として活用できる 木製組立て什器をご提供しています

Ver.2(2024/1/29)

- (公社)国土緑化推進機構では、「緑の募金」復旧支援使途限定募金(地震被害)として、「令和6年能登半島地震」の避難所等に、木の温もりを感じられる組立て什器「組手什」の提供を行っております。
- これまでも「組手什」は、東日本大震災・熊本地震等において、①避難所の各個人の区画でのプライバシー保護や生活用品の整理のため、また②共用スペースにおける支援物資の整理棚や下駄箱・傘立て等として活用されてきました。
- 避難所の生活環境の改善や心身のケア、共用スペースの有効活用に向けて、提供を希望される避難所等の方は、以下の連絡先までご一報ください。



東日本大震災の避難所での組手什活用事例

◆組手什とは

※避難所等での活用事例は、次ページをご覧ください。



- 組手什は、間伐材や製材端材などの有効活用や、森林整備を促進することも目指して考案され、過去の災害支援等でも重用され、2021年度前期のNHK連続テレビ小説『おかえりモネ』では「何にでもなる魔法の材料」として紹介されました。
- 長さ約 2m×幅 40mm×厚さ15mmの間伐材等に、“組手”とよばれる加工が施された部材を数本～数十本組み合わせて、収納棚から机まで、様々な用途に使える組立てキットです。

【特徴①】自由に何でもつくれる

：刻一刻と変化する避難所の状況や、避難者の多様なニーズに合わせて、自由にカットしたり組み合わせて、必要な什器等をつくれます。

【特徴②】誰でも簡単に組み立てられる

：組み立て方のコツさえ掴めれば、小学校低学年からご高齢の方まで誰でも組み立てられます。避難者同士の交流やリフレッシュになったという声も。

【特徴③】仮設住宅等で再利用できる

：接着剤を使わないため、仮設住宅・災害公営住宅等へ移り住む際に分解すれば、テレビ台や本棚などとして形を変えて再利用できます。

- また、国産材を使っており、木の温もりや香りが、避難者の心身の安らぎをもたらし、心身のケア等としても期待されます。

※この活動は、「組手什コンソーシアム」(全国の組手什ネットワーク)石川県木材産業振興協会/石川県木材青壮年会等による避難所等への提供活動の協力を得て、実施しています。

文責：組手什東海 長坂 洋 ながさか株式会社

連絡先 (本支援活動事務局)

緑の募金、使途限定募金

(公社)石川県木材産業振興協会 担当：古谷 隆明

(能登半島地震復興支援事業 担当理事)

[TEL] 076-238-5633 (フルタニランバー) ・ 090-7589-2000 (携帯)

[E-mail] takaaki@furu-tani.co.jp

